

平成24年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	高鍋町スポーツ少年団交流事業	基本目標	スポーツランドの推進					
担当課(局)・係	社会教育課	社会体育係	記入者	寺原 一哲	評価者	三嶋 俊宏	開始年度	年度

◎事務事業の目的・内容

事業の目的	対象(誰を・何を)	高鍋町スポーツ少年団										
	意図・目的	町内のスポーツ少年団の相互の交流を深めることにより、親睦と団活動の活性化をはかり、心身に健全な青少年の育成に資する。										
事業の内容	高鍋町スポーツ少年団(単位団)の交流											
23年度決算額		11	千円	24年度予算額		63	千円	事業従事者数	H23 0.04 人	H24 0.10 人		
主な支出項目	報酬	11	千円	財源内訳	国庫支出金		千円	23年度人件費	285 千円			
			千円		県支出金		千円	24年度人件費	714 千円			
			千円		地方債		千円	24年度予算額における一般財源の割合(H24)		100.0	%	
			千円		一般財源	63	千円	根拠法令・要綱等があれば記載してください				
			千円				千円					
町の補助事業	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 町単独補助 <input type="checkbox"/> 国県補助		補助事業名		-							
	補助交付団体		-		補助金要綱		-					
	23年度	補助額	-	千円	補助の形態	-	H24年度補助額	-	千円	終期	-	年度
		団体の決算額	-	千円	H23年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等							
		補助の割合	-	%								
繰越額		-	千円									

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名	何を狙い、どのような成果が得られたのか
	1 参加人数	常任委員会及び実行委員会で働きかけ、参加者を増やしていく。
	2	
	3	
活動指標	活動指標名	どれほどの活動をしたのか、事業の手法、手順等を詳細に
	1 会議回数	常任委員会時に説明(年2回)及び実行委員会時に協議(年1回)
	2 広報活動	常任委員会時に説明(年2回)及び実行委員会時に協議(年1回)
	3	

◎達成状況

指標名	単位	22年度	23年度	24年度
		参加人数	160	200
成果指標	目標値	160	200	160
	実績値	230	158	
	達成率	143.8%	79.0%	
活動指標	目標値	2	2	3
	実績値	3	3	
	達成率	150.0%	150.0%	
会議回数	目標値	2	2	3
	実績値	3	3	
	達成率	150.0%	150.0%	
広報活動	目標値	2	2	3
	実績値	3	3	
	達成率	150.0%	150.0%	
達成率	目標値			
	実績値			
	達成率			

事務事業名	高鍋町スポーツ少年団交流事業	担当課(局)	社会教育課
-------	----------------	--------	-------

◎事務事業の評価

	担当者記入欄	評価する項目	点数 自己 評価
(妥 必 当 性)	スポーツ少年団の親睦を深め、団活動の活性化を目的としている為、育成会、指導者、体育指導委員の協力を得ながら行うことが妥当である。	◎目的からして町が行うべきか	2
		◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2
		◎社会情勢(住民ニーズ)に適応しているか	2
		◎事業廃止による影響があるのか	2
有 効 性	スポーツ少年団の親睦及び団活動の活性化に繋がっている。	◎目標に対して成果は得られているか	1
		◎すでに目的は達成されていないか	1
効 率 性	職員の時間も少なく、育成会、指導者、体育指導委員の協力により。スムーズに大会が行われている。	◎活動量の効果は実際に上がっているか	1
		◎費用対効果が十分に認められるか	2
協 働 性	更に育成会・指導者との協力関係を築き、体育指導委員協議会等関係団体と協働をはかることが必要である。	◎町民との協働の可能性はあるか(ボランティア・NPO等)	2
合計(最高18点)			15

※町補助をしている場合のみ記入

(公 益 平 性)		◎公益性が高いか ※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること	
		◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか	
		◎町民の理解が得られる事業であるか	
		合計(最高4点)	
そ の 他			

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総 合 評 価	◎担当者の方針に対する 評価者としての所見 ◎統括者として、どのよう に事業を進めるべきと考 えているか、等	スポーツ少年団の相互の交流を深める意味から必要な事業と考える。育成会・指導者の協力は不可欠であり、常に連携し事業を行うことが必要である。	今後の方向性			
			事業 の 方 向 性	拡 充 維 持 縮 小 廃 止	廃 止 縮 小 維 持 拡 充	コ ス ト
					○	

◎事務事業評価委員の意見等

・青少年の体力向上、心豊かな人材育成のため必要である。 ・スポーツ少年団の交流は、予算的にも少額であり、少年の交流を深めていくにも必要と判断する。 ・競技団体の日程調整を密にして、団員が全員参加できるよう工夫してほしい。	◎今後の方向性	
	事務事業評価委員会	
	判定	維持
	外部評価委員会	
	判定	